

第2回小郡市老人福祉計画作成協議会 議事録

○日時

平成26年3月18日（火）19：00～20：15

○場所

小郡市役所 西別館3階 会議室

○協議事項

- 実態調査（一般高齢者用）の結果報告について
- 実態調査（認定者用）の結果報告について
- 自由意見について

○協議内容

佐々木会長あいさつの後、会長による議事進行により、以下のような協議が行われた。

【実態調査（一般高齢者用）の結果報告について】

事務局より、配布資料を使用しながら、実態調査（一般高齢者用）の結果について説明を行った。その後、以下のような質疑応答が交わされた。

（委員）

- ・「老人クラブへの参加の状況について尋ねた設問の結果について」41.3%の方が「参加していないし、今後も参加しない」を選択している。「今後も参加しない」という理由が知りたい。その理由は、把握はしているのかお尋ねしたい。

（事務局）

- ・理由については、把握していません。

（委員）

- ・33ページの結果で、41.3%の方たちが（老人クラブに）参加していないというならわかるけど、今後も参加しないというところが気になる。そこが非常に心配であり、その理由が知りたい。

（事務局）

- ・今回は、個々の集計になっています。これからクロス集計を行っていくことで、その理由について分かることについては調べていきます。

（会長）

- ・今後の重要な課題になってくると思うので、調査をする場合にこのことを踏まえて調査をしてほしい。
- ・前回との比較があり、ほぼ同じあるいは多少増加している。今後は、その事を活かしてい

かなければならないので、参考にしながら検討していかなければいけない。

- ・ 5 ページのところで説明はあったが、2 ページの中で調査対象が平成 26 年 1 月 1 日現在 65 歳以上になっているが、5 ページの間 2 で「65 歳未満」が 8.1% となっている。調査する上では「65 歳以上」と統一したほうがよかったのではないかと。サンプルが変わってくるのではないかと。

(事務局)

- ・ 平成 26 年 4 月 1 日に 65 歳以上になられる方に聞いたので、平成 26 年 1 月 1 日ではまだ 65 歳になっていない方がいます。

(会長)

- ・ しかし 65 歳以上を対象にするととなっているので、一般高齢者は、65 歳以上から 1000 人無作為にととなっているから人数が変わってくるのでは？

(事務局)

- ・ 2 ページの中で調査対象が平成 26 年 1 月 1 日現在の市民の中から、平成 26 年 4 月 1 日以前に 65 歳以上になられる方 1,000 人を対象に調査をしていますので、ここ 3 か月は 64 歳の方がいらっしゃいます。ここは、表現方法を考えていきます。

【実態調査（認定者用）の結果報告について】

(委員)

- ・ 64 ページの間 8 について要支援者の割合が前回に比べて下がって、要支援 1 は上がっていることについては説明されていたが、要介護 1 は前回と比べてどうか？

(事務局)

- ・ 要支援 1 以外については、あまり差はなかったと感じています。要支援の比率が、前回と比べて大きく変わっています。ただし、この結果が、必ずしも現在の認定者数の割合を示しているわけではありません。今回の調査が、このような結果になったと考えてください。

(委員)

- ・ 74 ページの間 16 の「緊急通報システム整備」について、小郡市は整備率が低いと思う。その理由の一つに、対象疾患が循環器疾患という狭い対象になっていることもあるのではないかと。全盲の方たちには付けてあげたいが、それは対象外となっているので考えて欲しい。疾患で限定するのではなく、状況を考慮して利用できる範囲を決定して欲しい。

(事務局)

- ・ 検討していきます。

(委員)

- ・ 地域密着型とよく聞くが、地域密着型とは何か？

(事務局)

- ・ 地域に即したサービスの提供というのが基本であります。

(委員)

- ・地域密着型とはどこまで密着しているのか。どこまで関係しているのか。

(事務局)

- ・介護保険サービスについては基本的には市内、市外問わずサービス事業所を選択することができるが、地域密着型になると、小郡市にある事業所については小郡市在住の方のみの利用となります。

(委員)

- ・地域密着というのは響きがいいが、よくわからない。また、いずれかの機会にもっと詳しく聞きたい。

(委員)

- ・一般用、認定者用と合わせていることについて、結果の出し方が並列にされてない。加えて年齢別の結果がない。これは事前にその方がいいと判断されたことなのか、ページを行ったり来たりして見づらかったし、年齢別で集計して欲しい部分がある所があったので、その理由を聞きたい。

(事務局)

- ・今回の報告は単純に集計したものとなっています。今後はクロス集計を行い、より課題等が見えるような形で最後はまとめたいと考えています。

(委員)

- ・「災害時の避難場所は知っていますか。」について半数の方が知っているということですが、多分、これは、自分の地域はどこの小学校が避難場所かという意味合いだけだと思う。介護を受ける人が介護者のいないところに行っても放置されるだけになるのではないか。そういう内容的なものも含めて検討して欲しいと思う。

【自由意見について】

(委員)

- ・今後、報告書をどのように活かすのか？

(事務局)

- ・今回は速報の段階であり、これから関連した項目を加味して、関連付けて、一般の高齢者、認定者にどういった課題があるか、十分調査して解決に向けて平成27年から3年間で出来る事業を精査して、次期計画の案として検討していきます。

(委員)

- ・国民年金だけで生活している人はどれくらいいるか？

(事務局)

- ・人数までは、把握はしていません。

(委員)

- ・国民年金だけだと6万円前後だと思う。これでは施設利用ができない。サービスを受けられなくて帰る人もいて忍びない。

(委員)

- ・国の方針として介護の法改正があり、要支援については地域支援事業に降りてくる。そのときにこの資料が役に立つ。たくさんの要支援の人たち、介護保険をカバーされていく方たちのためにしっかり考えていく基礎基盤にしてほしい。今後の国の方針がまだまだはっきりしない状態で難しいと思うが、宜しく願います。

(会長)

- ・このデータをしっかり認識して、新しい小都市の計画を作っていくことが目的であるので、しっかり考えていくことにしましょう。

協議後、河原副会長の挨拶を最後に閉会となった。